

# 峰厚介(Kousuke Mine) Quintet Profile



峰 厚介(Kosuke Mine)/Tenor Saxophone

1944年2月6日 東京生まれ。  
中学時代プラスバンド部に入りクラリネットを吹き始める。

- ・17才頃にはクラリネットでのバンドのアルバイトを始め、この頃よりアルト・サクソも吹き始める。
- ・高校2年の頃、ジャズ喫茶でレコードを聴いたのがジャズとの出会いである。
- ・1963年にジャズバンドに入りジャズクラブで演奏を始め、1969年にピアニスト 菊地 雅章に見出され彼のバンドに入団、解散する1973 年まで在籍する。
- ・1970年には初のリーダーアルバム「MINE」を発表する。この年、スイング・ジャーナル誌の読者人気投票アルト・サクソ部門で、渡辺貞夫に次ぐ第2位となり新人アルト・プレイヤーとして注目を集める。
- ・1971年にはピアノのMal Waldronの日本公演、及びライブ・レコーディングに参加、また菊地 雅章とJoe Hendersonのコンサートにも 参加する。この年よりテナー・サクソも吹き始める。
- ・1973年、菊地 雅章バンド解散後、ニューヨークに渡り2年間滞在する。この期間にも一時帰国して、菊地 雅章のコンサートに出演し、自己の アルバム・レコーディングも行うなど活動を続ける。
- ・1975年に帰国後、すぐに自己のグループを結成して演奏活動を開始、1976年にはGil Evansオーケストラの日本公演に、アルトプレイヤーとして参加する。
- ・1978年には本田 竹広らとネイティブ・サンを結成しコンサート、アルバム制作(計8枚)など精力的な活動でジャズ・フュージョングループとして人気を博す。
- ・1983年、同グループでサンパウロ(ブラジル)、モントルー(スイス)のジャズ・フェスティバルに出演、ニューヨークのクラブでもライブを行う。
- ・その後、板橋 文夫、井野 信義、村上 寛の3人と結成したFour Soundや富樫 雅彦のJ.J Spiritsなどを経て、1992年自己のリーダーグループ「峰クインテット」を結成、1993年にはこのグループによる久々のリーダーアルバム「Major to Minor」を出し、この年のスイング・ジャーナル誌ジャズディスク大賞の日本ジャズ賞を受賞する。
- ・1996年には同グループでニューヨークのクラブ「パードランド」に出演、1997年には同グループ3枚目のアルバム「Balancez」を出す。2004年には渋谷 毅、林 栄を迎えリーダー作「Rendezvous」を発表する。
- ・2008年には峰クインテットを解散して新たに「峰カルテット」を結成し、2011年には新作CD「With Your Soul」を発売する。
- ・現在、自己のグループ以外にも渋谷 毅オーケストラをはじめ、数多くのセッションに参加している。
- ・リーダー・アルバム以外のレコーディングでは菊地 雅章、Mal Waldron、渡辺 貞夫、日野 皓正、富樫 雅彦、渋谷 毅オーケストラやNative Son、Four Sounds などを含め40枚以上のセッションに参加している。



南山雅樹(p)みなみやま まさき

札幌出身。  
4歳からピアノを始め、ジャズは独学。  
札幌市内のライブ・スポットで活動し、  
2008年、サクソ奏者峰厚介の日本ツアーに参加。  
2009年にCD、Driving Jazz Hokkaidoに1曲提供。  
2017年に渡欧、ストックホルム・ジャズ・フェスティバルに参加。  
2024年、札幌交響楽団のジルバスターコンサートに出演。  
教育の分野でも、札幌大学大学院で即興演奏、音楽理論の講座を担当するなど、コアな音楽ファンの育成に努めている。



長谷川 歩(g)はせがわ かける

1982年5月9日生まれ、15歳からギターを初める。  
音楽学校卒業後、山本敏嗣氏に師事しJazz ギターを学ぶ。  
故福居良との共演を経てBebopを追求する事となった。  
老舗ジャズクラブ「Slow boat」でのレギュラーライブ他、札幌市内ライブハウスを中心に活動中。  
Yamaha Music School講師としてレッスンを携わる。



秋田KANI祐二(b)あきた ゆうじ

1964年北海道生まれ。中学時代よりベースを始める。  
札幌の様々なロック・レゲエバンドのベースとして活躍し、後にジャズに傾倒。ベーシスト故川端民生氏(ネイティブサン)唯一の免許皆伝の弟子であり、型にはまらず、独特かつ切れ味鋭いプレイで人気を集めている。  
プロ転向後、福居良グループを経て自らのグループ「スタンダードカニBAND」を結成、ライブハウスを満員にしてのライブを連発、ゲストとして故片山広明らも参加している。拠点を北海道に置き活動しており、板橋文夫、峰厚介、林栄一、大口純一郎、小山彰太、古澤良治郎、浅川マキなど、多数の共演経験を持つ。  
現在、自己のピックバンド C-ICD KANIバンド、峰厚介北海道スペシャルバンド、小山彰太トリオで活動中。



竹村一哲(ds)たけむら いてつ

札幌市生まれ。9歳から地元札幌で大山淳氏に師事。  
中学卒業と同時に札幌を中心にプロ活動開始。  
2009年頃より、板橋文夫トリオFIT!のメンバーとして活動。  
2010年、渡辺貞夫グループのツアーメンバーとして初参加、現在もレギュラーメンバーとして毎月のツアーで活動している。  
2016年頃より峰厚介のカルテットのレギュラーメンバーとして活動。2019年発売の峰厚介カルテットのアルバム「Bamboo Grove」に参加。  
2024年に同バンドで中国公演。札幌時代は恩師であり、故人のビバップピアニスト、福居良トリオのメンバーとして活動。  
2019年3月、渡辺貞夫グループ(ラッセル・フェランテ(pf)ベン・ウィリアムズ(b))のNYブルーノート公演に唯一の日本人メンバーとして参加。  
2023年より毎年、同メンバーとの日本国内ツアーに参加している。  
2019年より自身のリーダーバンド(井上銘、魚返明未、三嶋大輝)の活動を始め、2021年7月「村雨」発売。